

## 1 けが・傷・やけどなどに対する医薬品

### 【外用殺菌消毒薬】

近年、消毒薬の使用が皮膚損傷面への刺激となり、回復を遅らせるとの見解より、創傷面などへの殺菌消毒薬の使用は控える方向にあります。どうしても使用が必要と判断された場合も最小限にとどめたほうがよいでしょう。殺菌消毒薬の剤形としては液体タイプをお勧めします。パウダータイプのものは洗浄が不十分であった場合には、逆に症状の悪化を招くこともあり、保健室の医薬品としては適当とは言えません。また、希釈が必要な殺菌消毒薬は、皮膚損傷面に使用する場合、希釈水として滅菌精製水が望ましく、購入上の問題や保管管理上の問題、使用頻度を考えると保健室対応には不向きです。創傷面・粘膜面に比較的刺激が少ないとされる殺菌消毒成分は、アクリノール・ベンザルコニウム塩化物・ベンゼトニウム塩化物・過酸化水素水ですが、アクリノールは接触性皮膚炎の起こる頻度が高く、使用は避けたほうが無難でしょう。

### ●消毒薬参考商品

有効成分	参考商品	その他の成分	使用法・注意など
過酸化水素水	オキシドール	—	そのままの液を脱脂綿・ガーゼに浸して患部を洗う。 直射日光を避け、なるべく30℃以下で保存。
ベンゼトニウム塩化物	マキロンS ケンエー シロチン ムヒのきず液	クロルフェニラミン マレイン酸塩 ナファゾリン塩酸塩 ジブカイン塩酸塩	噴霧またはガーゼ・脱脂綿に浸して塗布。 注) 血液・体液・石鹸成分の存在により著しく殺菌力は低下する。
ベンザルコニウム塩化物	マッキンZ	クロルフェニラミン マレイン酸塩 ナファゾリン塩酸塩 リドカイン塩酸塩	塗布または本液をガーゼに浸して患部に当てて包帯または絆創膏にて覆う。 注) 血液・体液・石鹸成分の存在により著しく殺菌力は低下する。

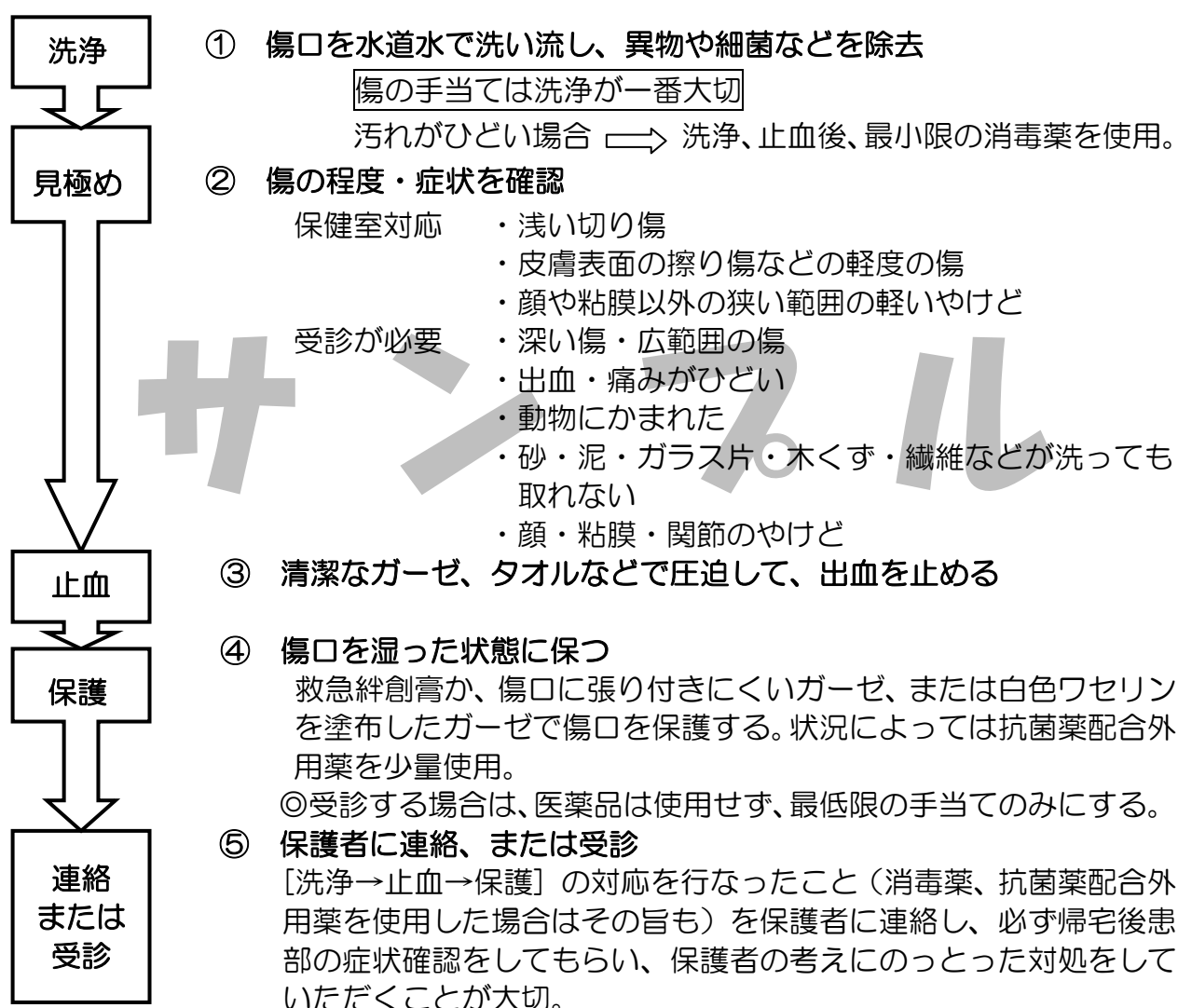
### 【抗菌薬配合外用薬（きず薬）】

近年の傷治療の流れを考えれば、必ずしも必要ではありません。ガーゼで創傷面を保護する場合、その貼りつきを予防するための油分として使用するならば、軟膏の基剤である白色ワセリンで充分であると考えます。しかし創傷部分の汚れが取りきれない場合、応急的に使用したい場合もあるかと思いますが、作用の強い抗生物質は、過敏症も強く出る可能性が高いので保健室対応には向きません。殺菌消毒薬・サルファ剤配合の医薬品は、作用も副作用も比較的穏やかではありますが、体質をよく確認したうえで最低限の使用にとどめましょう。

●抗菌薬配合外用薬参考商品

抗菌有効成分	参考商品
イソプロピルメチルフェノール	キップパイロール・Hi
クロルヘキシジン	オロナインH メモA トフメルA
スルファジアジン（サルファ剤） クロルヘキシジン塩酸塩	マーレンS
セトリミド	キシロA軟こう

参考1) けが・傷・やけどへの対応



◀ 湿潤法について ▶

現段階において保健室対応での完全なる湿潤法の実施には無理があると思われませんが、上記のようにアレンジした方法であれば、抵抗なく行え、保護者・学校関係者にも理解を得られると思います。  
 ただし、保健便りなどで湿潤法の紹介をするという形で啓発していくことは必要です。